# 学校だより

10月号

Challenge Dream Interaction

令和元年９月２８日

横浜市立上飯田小学校

http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/kamiiida/


## 「当たり前」を見直す


校長　横山美明


9月８日～９日にかけて関東地方を横断した台風15号は大きな被害をもたらしました。今回の台風は風がとても強く、送電用の鉄塔が倒れたり送電線が切れたりと各地で停電を引き起こしました。東京電力によると、千葉県や神奈川県などで一時、約93万軒の停電が発生したとのことです。

さて、９日（月）は横浜市内の学校も暴風警報の発令により臨時休校となりました。本校ももちろん休校となりましたが、当日の朝は停電で電子ロックも解除できず校内に入ることすら難しい状況でした。校舎内でもテレビやコンピュータはもちろんのこと、電話も最低限の機能しか使えませんでした。スマートフォンを使って何とか最小限の情報を得たり発信したりできましたが、もしその電力さえ失われていたら、それすらできず本当に困ってしまったと思います。

私たちの生活に電気はあって当たり前のものになっています。日本国内の現在の電気普及率はほぼ100%ですが、日本初の電力会社である東京電燈が電力の配給を始めたのは明治20年ごろからです。それからいくつもの電力会社ができ、50年以上かかって日本全国に電気が行き渡るようになりました。そう考えてみると、日常生活で当たり前のものとなっている電気もその普及からまだ100年も経っていないということになります。

先日、「風をつかまえた少年」という映画を観てきました。この映画は、実話をもとにして作られており、今から約20年前のアフリカのマラウイという国が舞台となっています。当時のマラウイは、約2%しか電気が普及していませんでした。そんなマラウイを大干ばつが襲います。映画では、14歳のウィリアム少年が家族を助けるために、図書館で出合った1冊の本をもとに独学で風力発電を起こすまでが描かれています。「教育とは何か」「学ぶとは何か」ということの原点を考えさせられる素晴らしい映画でした。それと同時に、今の生活に当たり前に存在する電気、その大切さを改めて考えさせられました。原作絵本も購入予定ですので、子ども達にもぜひ読んでほしいと思います。

以前、朝会で、「『当たり前』の反対語は、『当たり前』ではないこと、めったにないこと、有り難いこと、それが『ありがとう』という言葉につながるのです。」という話をしました。今回の停電をきっかけに、自分自身も日常生活の中にある「当たり前」と感じていることにもう一度目を向けて、改めて「有り難い」こととして、感謝の気持ちをもちたいと思います。